

JGAPAPER

2023 Autumn / Winter

2023年11月 発行 一般社団法人日本グラーデコ協会

Vol. 21



Modern
KINTSUGI

グラー継ぎ

Voice

山岡まさえ

Masae Yamaoka

一般社団法人 日本グルーデコ協会代表理事

グルーデコ®を知った時と同じ、
あの時に感じた高揚感をまた感じて
います。

いるのです。そして、そのワクワクは、グルーデコ講師の方々以外の方も巻き込んでいよう、特に食器やインテリア、お料理好きな方々からも、お問い合わせを頂く日々が続いています。

今まで何度もお話ししてまいりましたが、モダン金継ぎ・グルー継ぎは、ハンドメイドとSDGsの持続可能な開発目標への貢献を結びつけることを使命とし、JGAは以下の取り組みを本格的に開始します。

教育プログラムの提供

新しい接着剤を使った、現代の金継ぎとして、そのハンドメイドのスキルを広めるためのワークショップを提供し、教育の普及に貢献します。

SDGsへの アートプロジェクトの支援

アーティストやクリエイティブなコミュニティと連携し、SDGsに関するアートプロジェクトをサポートし、意識の高まりを促進します。

環境への配慮

モダン金継ぎ・グルー継ぎは、環境に優しい素材と製造プロセスを採用し、地球への負荷を最小限に抑えます。

地域社会への貢献

地域社会への支援活動を展開し、SDGsの地域的な目標達成に向けた協力を行います。

2022年から始めた循環型社会の実現に向けた私たちの取り組み「ハンドメイドでSDGs」も、今後大きく進みだしていくことと思います。どうぞ、ご協力よろしくお願いいたします。

2019年にinstagramの投稿で私が初めて使った「グルー継ぎ」という造語の認定講師講座がもうすぐ始まります。

W G l u e®という接着剤の存在が「グルーデコ」と「グルー継ぎ」を生み出しました。

グルーデコ認定講師講座が生まれたのが2013年、ちょうど10年前です。認定講師の方々の間では、「グルーデコを知った時と同じくらいワクワクしています」というお声も多く、皆さんの期待の大きさにちよつと緊張が走ります。

でも、私自身もその気持ちは全く同じで、あの時に感じた高揚感をまた感じて



Voice

SALON de POLIN
伊藤 美穂

Miho Ito

グルーデコ®認定講師



「こんにちはちは認定講師です。」

いごま経営塾との出会い、 伴走支援開始

2021年、コロナ禍により生徒の来校が減っていた私は、解決策を探していました。その時、私が住んでいる奈良県生駒市が主催する個人事業者向けの講座「いごま経営塾」を知り、すぐに参加しました。このオンライン講座には毎回100人以上の個人経営者が参加し、講師からマーケティングについて学び、グループワークを通じてアイデアを出し合う前期の講座がありました。その後、希望者のみが自身の事業計画をプレゼンする機会が与えられました。私は「生駒から世界へ。ハンドメイドの価値を伝えたい」というテーマでプレゼンを行った結果、コンサルタント、銀行の方々、そして市役所の方々が一つのチームとなって約3ヶ月間私をサポートしてくれることになりました。

バンブーデコの誕生、 そしてパリへ

実はこのとき、2023年7月に開催予定のJapan Expo Parisへの出展オファーを頂いていた私は伴走支援でパリ出展内容のブラッシュアップをして頂くかと考えたのです。まず初回の伴走支援の会議で私の出展プランをお話したのですが、「それってわざわざパリでやる必要がある？」という厳しい反応でした。当時の私は今まで日本でレッスンや販売をしているそのままの作品をパリへ持って行く考えだったので、伴走支援の場で意見を出し合ううちに「日本らしさ」そして「私らしさ」が合わさった新しい作品を作り出す必要性を感じるようになりました。その過程で、できる事ならば生駒らしい要素も取り入れたい、と生駒の竹をブローチの土台として使うバンブーデコを生み出す事になったのです。生駒は日本有数の竹製品の産地ですが有効利用



できるのはごくわずかです。無駄になる竹を土台として使う事でアップサイクルして地域にも貢献できると考えました。伴走支援を経てバンブーデコという新しい作品作りに出会った私は、「舞妓はん」や「組紐」、そして私が大好きな動物たちを「バンブーアニマルズ」として作り出すことで作品に「私らしさ」の要素も加えた作品にし、いよいよパリの催事へ持っていく日が来ました。

いざJapan Expo パリへ出展してみた結果

7月14日、ついに初日。1年半準備してきたバンブーデコ作品にフランスの方はどんな反応をするだろう。そんなワクワクと物凄い緊張の入り混じった気持ちで1人ブースに立ちました。続々と会場にひとが溢れ賑わう中、「この桜のブローチ、素敵だから作りたい」という親子がワークショップに申し込んで下さったのです。「SAKURA Paris」と名付けた竹土台のブローチは渡航1か月前に必死にデザインした作品で、作って下さったときの嬉しさは今も忘れられません。その後も作品を購入して下さる方、作品の写真をたくさん撮って下さる方、バンブーデコに興味津々で私の拙い英語にも耳を傾けて下さる方。たくさんの方々に作品を手にと取っていただけて、バンブーデコを、そしてグルーデコ®の魅力を伝えることができた4日間になりました。中でも初日にブローチを購入して下さった息子さんと素敵なお母さんが4日間とも私のブースにきてくださり最終日にはお別れの挨拶にまで来てくだ

さいました。作品を通して気持ちを通わせる事ができるハンドメイドの温もりを私自身が強く感じた出来事でした。

ジャパンエキスポを経て。 今後の展望

今、ジャパンエキスポという大きな舞台を経験して思うことは、自分が大切にしている作品に込めた想いは国や言葉の壁を越えて、伝えたい人に必ず伝わるという事です。私が大切にしている作品の一つ、はめるとパンダが見つめてくれているような「見つめるパンダリング」を最終日の閉幕際に「やっぱり欲しくて！」と走って買いに来てくださった可愛いパリジエンスがパンダリングを指にはめた時の笑顔とパンダリングのかわいさに一緒に絶叫して喜んだ思い出は今後の私の作品づくりに必要な自信をくれました。レッスンでも販売でも誠実な作品作りをひたむきに続けていくことが最も大切なことなのだと思わせて頂きました。この経験を活かしてまた成長してパリや違う国でも作品の魅力を伝えていきたいです。そして日本でもバンブーデコの魅力を発信していきます。海外出展はやはり金銭的にも精神的にも生半可な気持ちでは乗り越えられない大変さがあります。でも本当にやりたい事ならばきっと出来ます。1度きりの自分の人生。やりたい事に全力で自分の人生を輝かせていきましょう。



tions AW 2024



ODEYSSEY
JET
— ジェットオデッセイ —



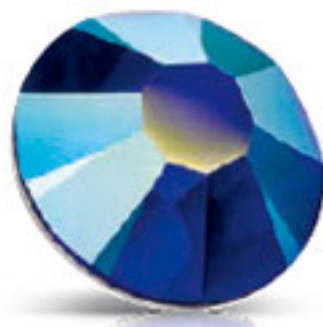
Jet Odyssey

説得力があり表現力豊かなコバルトブルーは、その変身能力で普遍的な魅力を保っている。AIやデジタル拡張がウェアラブル・デザインと切り離せないポスト・ナチュラルの世界を表現しています。

COBALT
BLUE
— コバルトブルー —



Cobalt Blue



Cobalt Blue AB

ライト・グラファイトのソフトなシルバークレーは、トレンドやコアな美意識に左右されない控えめなラグジュアリーを感じさせる。ミニマルでメンズライクなライト・グラファイトは、中間色を引き立て、カジュアルな装飾を取り入れるのに理想的です。

LIGHT GRAPHITE
— ライトグラファイト —



Light Graphite



Light Graphite AB

Crystal Innova



NEW FLATBACK SHAPE
Kite MAXIMA

PRECIOSA



RANGE EXTENSION
Pear MAXIMA
Additional
Colors

PRECIOSA



NEW COATING
Jet Odyssey

PRECIOSA

キュートでありながらグラマラスでもある、アイコン的なシンボルへの欲求を満たします。ファッション・セグメント、スタイリング、コンテクトによって、KITEはノスタルジックで遊び心のあるものから、シックでモダンなものへと変貌を遂げます。

MK
AI
XT
IE
MA
—カイト—

Pear MAXIMA全4サイズに10色が追加されました。

—アディショナルカラーズ—

CTA
OID
LON
RA
SL

新しいメタリックコーティング、Odysseyで大胆不敵なファッションの旅に出かけましょう。完璧な輝きを放つブロンズ色のOdysseyは、ハードウェアと装飾の境界線を曖昧にし、独特の超未来的な感覚を生み出すことで、デザイン工芸に力を与え、増幅させます。



橘高 千里

Chisato Kittaka

山岡まさえ

Masae Yamaoka

山岡まさえの
この人に会いたい

Interview



橘高 千里

Chisato Kittaka

株式会社 connect pro
代表取締役社長

HP
<https://connect-pro.work/>



instagram
<https://www.instagram.com/connect.pro.31/>



facebook
<https://www.facebook.com/connect.pro.4/>



公立高校の芸術科コースから福岡工業大学短大部に進学。卒業後はキャラクター文具メーカーの管理・プランナーに就職。ネット事業部の立ち上げに関わり、ML営業も経験。2019年、株式会社 connect pro を設立。現在は、デザイン系専門学校で教鞭と社長業をこなす日々を送っている。

強みは「アナログ」と「デジタル」の両使い。作家・クリエイター・福祉利用者の人々が、「モノづくり」で、『継続的可能』な活きていける世の中にしたと動んでいる。

「諦めなければ、チャンスは来る」 デジタルの力を活かした 会社員時代

Y (山岡) 私が代表を務める日本グルーデコ協会には、アクセサリー作家、また講師活動をされている方、教室を開いている方などが所属されています。協会の会報誌に「山岡まさえの、この人に会いたい」というコーナーがあり、私がお会いしたい方に話を伺っております。この度は、このようなお話を聞いてくださり、ありがとうございます。

K (橘高) いえいえ。選んでいただけて光栄に思っております。ありがとうございます。

Y 橘高さんがされているハンドメイド作家さんへのブランディングやビジネスサポートについては、協会の講師さん達にとつてかなり興味深いと思います。ぜひ、その辺りを聞かせていただけたらと思います。

早速ですが、橘高さんのホームページを拝見して、驚きました。橘高さんは、JGAのカンファレンスでお手伝いをしてくださっていることもあり、映像制作などのお仕事がいっぱいなのだと思いますが、ハンドメイド作家さんたちに

寄り添った活動もされているんですね。このようなお仕事を始められることになったきっかけについて教えてください。

K 今回のポジションを築くことになったきっかけは、専門学校で教鞭を取っていたことにあります。私自身は、高校は公立の芸術コースの高校に通い、その後は工業大短大に進学しました。そのため、「アナログ」と「デジタル」の両方の土台があったんです。工業系へ行ったのは、モノ作りをしながら「これからの時代は、コンピューターを学び、プログラムをできるようにいかないといけない」と考えたからです。結局、3Dとプログラムには挫折しましたが、ウェブは続けることができました。そうしてウェブを学んだことで、キャラクターメーカーに就職します。

「リラクマ」や「たればんだ」、「すみっこぐらし」などのキャラクターを扱っている、サンエックス株式会社に入社し、生産管理(現:商品制作部)という部署に配属されました。本当はプランナーになりたかったのですが、仕事は製品管理専門になりました。あの頃は Windows 95や98の時代で、それらに囲まれながら「私はここで力を発揮していくのだな」と思っていましたね。

Y それは、何歳の頃でしょうか？

K 20歳の頃です。実際の仕事ではデジタルの要素はなく、使うソフトは「Photoshop」と「Illustrator」「Excel」「Word」くらいでしたが、「モノ作りの基礎」を学ぶことができました。そんな中ある日、社内でもポイントを作れる人を探していたので、私は手を挙げ、営業と企画の補助をしていたら、プランナーとして商品企画室(現:商品企画課)へ異動になったのです。入社時はプランナーになれなかったけれど、こうして異動のチャンスももらえて、諦めないで続けていればチャンスは来るのだと思いました。プランナーの仕事とネット

事業部の立ち上げに関わらせてもらったことが、今の活動の土台となっています。

Y なるほど。「諦めないで続けていれば、チャンスは来る」って、本当にその通りですね。それを、身をもって体験されたのは素敵です。

「モノ作りだけを教えていても意味がない」会社設立に至った思い

Y その後、どのようにして現在の活動にまで繋がっていったのでしょうか？

K 実は、会社員時代から作家活動を始めました。会社のデザイナーの先輩たちがデザインフェスタなどに作品を出していて、私も同期とやりたいと思ったことがきっかけです。また、会社を退職し、結婚や出産をしていく中で、フリーランスになろうという想いが強くなりました。デザイン専門学校に縁があり、勤めることになりました。専門学校時代でも、会社員時代に得た知識を自分のモノ作りに活かしながら、作家活動も続けていました。専門学校で教鞭をとっていく中で、「作ることを教えて



『名誉を捨てて進んだ私が、選り守り続けてきたこと』

いても、意味がない」という思いが強くなっていきます。そして学校側とカリキュラムを相談しながら、これまで培ってきた「モノを作る」とは何か「人に届ける」とは何かについて伝えるようになりました。

Y とてもよくわかります。モノを作るだけでは、意味がない。協会の講師さん達とも、日々これを痛感し続けています。

K ありがとうございます。しかし、これだけ必要なことであるにも関わらず、伝えられる時間は限られていました。専門学校は、2年制です。実際、2年間で学べることは、とても少ないのです。モノを作る技術を習得するだけでも2年を費やすのに、それ以外のことをさらに学んでもらおうとしても無理がありました。何年も生徒を送り出していく中で、クリエイターとして生き残るには、技術だけではダメだという思いがより強くなっていったのです。

Y それは、何年前ですか？

K 5年前です。学校でサークルを作ったのが2017年で、そこから2年間近くがんばりましたが、どうしても学校の先生と生徒である以上、教育機関の中ではできることに限界があります。「この制限を取り払わないと、この子達にも私にも何にもならない」と感じた時があり、そこで卒業生や在校生たちに「ここ、飛び出していい？この屋号、使ってもいい？」と尋ね、今の会社を作りました。会社を運営していきながら、「アナログ」と「デザイン」、また「営業」や「生産」「企画」といったことが積み重なっていき、今の形となりました。会社は私1人でやっており、事業提携という形で作家さんとチームアップしています。

全てを良くするカギは、チームを作ること

Y 橘高さんは、モノ作りをする人たちにとって本当に必要なスキルを、全てお一人で持っておられるスーパーマンのような方ですね。そのスキルは、まさにハンドメイド作家さんやモノ作りをされている方が一番悩まれているところだと思えます。橘高さんが唱え続けてこられた、「モノ作りだけではなく、それ以外も必要」ということは、きつと大企業や手広くやられているクリエイターさん達なら数年前から気がつかれているでしょうが、多くの方は最近になってやっと気づき、痛感され始めたのではないのでしょうか。グルーデコ協会の講師さんは、主婦が多いです。きつとコロナ禍辺りから「このままではいけない」と感じ始められたと思います。そんな方々が行動に移すには何から始めれば良いか、アドバイスをいただけませんか？

いつていない実感があるならば、捨てる勇気を持たないといいけません。何をするかを選ぶということです。実は私も以前は作家活動、講師活動など、全て1人でやっていました。ホームページも、ブログも一生懸命作りました。しかし一生懸命作ったにも関わらず、ほぼ検索には引っかかりません。一生懸命作ったのに、何の成果も出ないことに落ち込みました。実際はホームページの作り方が悪いのに、自分の作品が悪いんだと思ひ込み苦しみましたね。

Y 今でも、1人でホームページやSNSで作品を発信されている方は多いです。しかし、1人でできることには限界があるので、結果を出すのは難しいですね。以前の橘高さんのように、「作品のせいだ」「自分のせいだ」と思ひ込み、制作をやめてしまう人も多いのではないのでしょうか。そんな人達に対しては、橘高さんはどのような言葉をかけられますか？

K 人それぞれ、ステージや状況も違うと思うのですが、私が提案しているのは「チームを作る」ことです。自分が得意なことは継続し、不得意なことは誰かをお願いするのです。1人でやっている人は、いくつか理由があるはずですが、自分でやったほうが速いと考えている人。または、お金がかけれない人ですね。後者の人ほど、チームで活動して成果をあげることに向いています。同じ目標を持ち、熱が冷めないようにするのは、とても効果的です。お金で解決できることを自分でやっていると、モノ作りの時間、準備をする時間も減りますよね。そして、「あれもしなきゃ、これもしなきゃ」となり、結局「私、何をやっているんだろう？」と悩むことになります。もちろん、モノ作りをしながら他のことも得意で、できてしまう人は良いですね。インスタ投稿や、ブログを書くのが苦にならないなら良いですが、そうでない場合は、チームを作ってチームで活動していくことをおすすめしています。

良いチームを構成するために必要な3タイプとは

Y 私自身も、チームの重要性は感じていきます。グルーデコ講師の方々も、1人で活動を続けていくのは難しいのでチームでやろうというところまでは来ていて、チームを組んだり、グループで活動したり、イベントに出られたり、ということをおすすめしています。しかし、みなさん作家さんなので、

所々でつまづいてしまったり、揉めたりということがあり、続かないことが多いです。最初はみなさんでがんばりますが、2年、3年は続かないのが8割ほどでしょうか。グループの活動は、3年は続かないと成果は出ないのに、グループのメンバーだけが変わっていくという状況になっていきます。グループを組んだほうがいい、自分達も活動がしやすいことには気がついてはいるのですが、続かずにやめてしまい、またチャレンジしては同じパターンに陥るという場合が多いです。それを繰り返す人達は、どこを変えれば良いのでしょうか。

K それには、いくつかのパターンがあります。やはり多いのは、目標を見失ってしまったケースですね。メンバーの中に、俯瞰して見られる人、主となる人がいなかったのだと思います。あとは、他者責任。活動する中で、自己責任ではなく他者責任で動いてしまう環境です。モチベーションの維持が自分自身ではなく他者に向いてしまうので、グループは自然と崩壊してしまいます。それから、気質もポイントとなりますね。グループをまとめる気質の人は、どのグループにも核として必要です。自分がやっていることに対して、「このチームが発展すれば、ゆくゆくはそれが巡って自分のためになるんだ」というマインドを持つている人がいることが重要です。

Y 具体的に、チームを組む際にはどのようなメンバーを集めれば良いのでしょうか。

K まず、「とにかくやるぞー」と先頭を切る、お祭り気質の人。目標に向けて情熱を振りまく人がいて、その下に綿密な計画や多方面の手続き、配慮などができる参謀の人。そして、その下に「○○さんが何か言っているわ面白そうだから、人を繋ぐね」とか、「みんなが動くなら動こうか」と追従する人。この3タイプに分かれます。

チームを構成し、続けていくためにもっとも必要なこと

Y まさに協会が、そのパターンです。私が協会を10年以上存続できているのは、とてもラッキーだったのだと思います。実際には、難しいことですね。誰もが良いチームを作るために、どう動いていけばいいのかが。



何かコツやアドバイスがあれば、ぜひ聞かせてください。自分の気質って、自分ではなかなかわからないですね。

K 自分と似た者同士ばかりが集まってもいいじゃないですか、自分と反対意見の人がたくさん集まるのもいいじゃないですか。そのバランスは大切ですが、たとえ気質がバラバラだったとしても、グループが大事になっているものを一つ決めておけば、続けていくことができます。志、理念、信義など目指しているものを共通項として持つと、性格やポジションが違っていても、それが確固たる楔(くさび)となります。例えばイベントを成功させる上で、売上やお金が大変な人と、それよりもお客様の笑顔が大事だという人。売上の目標値を決め、それを達成することが大事なのか、もしくは少し赤字となってもお客様の笑顔が見られたらいいのか。自分が一番大事にしているものは何なのかをはっきりと公言することが大切です。それが理念となり、人が集まります。

Y 私が協会で、10年以上変わらず言い続けてきていることです。グループでやっていくことは、決してシンプルではありません。ただモノ作りを楽しむだけでなく、ビジネスをしないといけないですし、利益も出さないと続けられません。理念が全くぶれずにある続けるからこそ、こうして続けてこられたのだと実感しています。しかし、これがまた難しいです。人には、本音と建て前があります。建て前ばかりではうまくいきませんし、本音だけだとぶつかり合います。その辺りも、何かうまくやっていくためのコツはありますか？

K そこは、いわゆる「戦友」をたくさん作ることで、言い合いをしてぶつかることもできるし、感情を抑えるべきところは抑えられる。ぶつちやけ話もできるし、お酒もお茶も酌み交わされる。自分が出したことを、受け止めてくれる人を見極めることが必要です。やはり最終的には、それができる人だけが残っていきますね。「この人に自分のダークな一面を見せても大丈夫だ」という信用と信頼が結ぶる間柄の仲間。そういった仲間が、核となっていくのです。この核となる人を、メンバーに入れてください。

Y やはり長く続けていくことにより、確固たるメンバーが築き上げられていきますよね。橘高さんも、一度や二度で諦めてしまう人たちは、そういったメンバーや仲間には出会えないと思われませんか？

K はい、思います。やはり苦勞を共にせず、利益だけを目的とするメンバーだと、苦境に立たされた時や収益が悪い時に、すぐに散ってしまいます。志や理念、相手の

性格を超えて、その苦境さえも味わって踏ん張れる人。それはやはり、最低でも2年間は一緒にやらないとダメですね。それ以前に諦めてしまう人は、見切るのが早いと感じます。

Y 私が見ている中でも、1回や2回で終わってしまう人が多いので、もう少し続けたらいいのにな、いつも思います。

K きっとそれは、理念や本心を話せていないままだったのではないのでしょうか。よく「やってみたら、思っていたのと違う」と感じる人は多いです。そこで、何が思っていたのと違うのかを話しましょう。それができていたら、結果は違っていたかもしれない。そういった話はしづらいかもありませんが、そこはやはり一歩踏み込む勇氣が必要です。

お金のブロックをも外す、チームの力

Y ここで、お金についての話も伺いたいです。モノ作りのお仕事をしていく上で、切っても切れないのが、お金の話だと思えます。よく出るワードに、「お金のブロック」があります。このブロックを外すにはどうしたらいいか教えてください。

K お金のブロックを外すポイントには、「自分を大事にできているかどうか」と思っています。いろんな作家さんがおられますが、どう見ても作品への値付けが安過ぎる人は、「自分なんて」と思っている人が多いです。自分が作っているものと同じようなものは世の中にたくさんあるから、価格を安くしないと買ってもらえないとか、見向きもしてもらえないなどと思込んでいます。自分に自信がなく、自分の価値を正しくジャッジできていません。こういった人たちによくあるのが、周りに応援してくれる人がいないというケースです。家族やお友達が味方ではないというパターンが、とても多いんです。そのため、「自分なんて」と思い込み、「自分がやれていることが誰かの役に立っただなんて、自己満足じゃないのか」と考えてしまうんですね。この思い込みを突破した人たちが、本当の価値や影響に気づくことができます。それもまた、捨てるものと選ぶものというところに繋がってきますね。

Y では、自己評価を上げるには、どうすれば良いのでしょうか？

K そこもやはり、チームです。ただ、そのチームも自己

評価が低い人だけで集まってしまうといけませんね。そもそも、バランスです。人が集まる際に、志や理念で集まれば、いろいろな人が集まります。すでにベテランの人もいれば、かけ出しの人もいる。そういったバラバラなタイプの人達が集まった中に、身を投じる。一緒にやることで、低い人は高い人に吸い寄せられるように上がっていくし、すでに高い人は、より高みの人とチームビルディングをして全体のレベルを上げていくこととなります。

Y やはりそこも、チームなのです。今の時代は、個人で動くよりもチームで動くことが、成功への近道、夢を叶えるための近道なのです。

K よくあるのが、自分のことは意外とわかっていないということ。自分ができることが、誰にでも同じようにできるのだと思込んでいること、ありませんか？しかし、それは傍から見ると、「いやいや、そんなことない」「あなたはそれを習得するために、どれだけの時間を使ったの？」と言われるでしょう。周りからは、見えているのです。人からの評価を聞いて、自分を思い直してみてください。ここでチームのメンバーがいると、「え？本当にその価格でいいの？安くはない？」と言ってくれます。お互いを判断し合える関係性。やはりチームは大事ですね。

Y ここでもやはり、チームですか。橘高さんがチームを作られる時には、何を一番大事にされていますか？

K 自分に足りてないものを持っている人を見つけることです。実は私も、お祭りタイプなんです。何かやろうと言いつつのは、いつも私。だけど、誰かが企画したプロジェクトに入る時には、綿密な参謀役となります。そして、自分がやろうと言いつつ出したことに関しては、それぞれのやるべきことに関して誰が自分よりも得意かというのをわかっているの、「やろうよ！」「よろしく！」「どう進んでる？」と声をかけながら、無茶ぶりについてきてもらっていますね。

Y それは、橘高さんほどの役割にもなれるので、そのチームごとに立ち位置を変え、チームを組み直していくということですか？

K そうです。いろんなチームに入り、いろんな自分を発見していくと、観察力がつき、経験値が上がります。やるべきことは、自分自身の棚卸しですから、自分の長所と短所を受け止め、選ぶことと捨てることをします。そこを見極めた上で、自分に足りない力を持っている

人を見つける嗅覚を鍛えていきます。

Y 少し話が戻りますが、1人でやる人の2つのパターンについて説明していただきましたよね。1人でやったほうが早いという人と、お金をかけられないから1人でやるという人。この、お金をかけられないから人に頼めないという人達に、「ただどこか良いことがあるから、頼んだほうがいいよ」というアドバイスがあれば、聞かせてください。

K ここで大切なのは、「現実的な着地点を決めておく」ことです。もちろん人によりませんが、例えばホームページを作ってもらおうとなると、最低でも20万、もしくは60万ほどかかる場合があります。そこで、どうして自分はホームページを作りたいのかを考えてみてください。作品集を作りたいのか、もしくは集客がしたいのか。その目的によつては少額で済む場合があります。例えば、「自分の講座をアピールしたいので、LPを作りたい」という場合は、2万前後で請け負ってくれる人もいます。ただ漠然と「お願いしたい」という状態ではなく、「目的と予算」という着地点を決めておくと、その目的に合わせた人を紹介してくれる人が現れます。自分がかげられる金額のポータルラインを決めておくといいですね。

Y なるほど。ここでもまた、選ぶことと捨てることになってくるのです。



「何に一番喜んでるか」を大切に、10年かけて捨てたこと

Y ここまでのお話で、一貫して「選ぶことと捨てること」が登場しましたが、橘高さんが捨てたことと選んだことは何ですか？代表的なものがあれば、教えてください。

K 10年かけて踏ん切りをつけ、捨てたことがあります。私は、自分の名前で売れる有名な作家になることを捨てました。私も以前は、「作家である以上、自分の名前が売れることが一番だ」と考えてきました。考えている中で、気づいたことがあります。実は私は、ドールハウスのようなミニチュアが好きなんです。ミニチュアの作品作りには、様々な技術が必要で、何か一つの技術に特化した状態では作れません。私は作品を大量生産する作家ではなく、芸術的な一点モノを作る作家に向いているのだと気づきました。それと同時に、「そもそも私は有名な作家になりたいのか？」と、自問自答を続けてきました。そして、自分自身の名前を売る作家になることを捨てたのです。ですが、モノ作りは捨てていません。作り続けていなければ、みんなに教えられませんかからね。研究することは、捨てません。研究をして得たその技術や失敗から、どうしたらできるのか、または

どうしてできないのかわかります。私自身が有名にはなっていないけれども、私と同じ思いをしている人たちを救うことができることに気がつき、プロデュースする道を選びました。やはり、会社勤めのころに商品企画に携わっていたこともあり、プロデュースすることが一番得意です。そのためにも、勉強としてモノを創る。それは捨てずに、自分自身の名譽だけを捨てる。会社として誰かの役に立てれば、それでいいのです。

Y 今のお話、私の状況と重なりました。今まさに私が悩んでいたこと、そのものです。10年以上JGAで協会理事として裏方作業をし続けてきて、ここ数年は裏方作業だけでなく、いろいろなことに手を出すようになってきました。そして、自分で自分の首を絞め続けてきたのです。そしてここ数年か月でやっと、やっぱり私はクリエイターになりたいわけではないということに、改めて気がつきました。誰かの役に立つこと、誰かのために何かをすること、誰かに喜んでもらえることにテンションが上がります。橘高さんのお話を伺いながら、耳が痛かったです。

K 私はこの決心をするまでに、10年かかりました。当時は、講師、作家、母親業、そしてメーカーの営業もしていたので、4足の草鞋を履いていました。するとやはり、それぞれに20か30%くらいの力しか入れられませんでした。

そこで私は、何が一番テンションが上がっているのかを考えました。そこで気づいたのは、生徒さんが「作品ができた！」とか、「賞を獲れたよ！」「作品が売れた！」などと報告してくれる瞬間が一番嬉しいということ。そして、私は人を育てたり、後押ししたりすることが得意なのだと感じながら、「私自身のモノ創りを、捨てるわけではない。私の技術は、誰かの礎（いしずえ）となるためにあるのだ」と決心することができました。そうして腹を決めると、強いですね。グンと勢いがつきました。

Y 今日は私の悩みをスッキリさせていただきました。橘高さんのおかげで、腹にどんと力が入った感じがします。ありがとうございます。

長く使い続けていく、本当に合ったロゴの作り方

Y 最後に一つ、お伺いしてもいいでしょうか。実は先日、グルーデコ講師さんたちとのZoomお茶会で盛り

上がった話題がありました。それは、「自分のロゴを作りたけれど、どうすればいいだろう」というものです。基本的には、プロには頼まずにセルフアベットなどを駆使しながら自分で作られています。ロゴはプロフィールの写真にも使えるので欲しい人が多いのですが、何かアドバイスがあればお願いします。

K それもまた、自分が何を信念としているかを大事にするべきです。私の会社は「connect pro」といって、人やモノをつなぐという理念を意味しています。それに加えて、作家時代の個人屋号である「pastel・petit labo（パステルプラボ）」もアドレスに残しています。どうしてこの屋号にしたかというところ、私は結局、一色には染まれないからです。やりたいことは、いくつもある。だから、パステルカラーでカラフルな表現にしようと考えました。それと研究はやめたくない。それで、「小さな研究所」という意味の屋号にしました。屋号を作る時には、格好良さや洗練さ、おしゃれ感も必要ですが、それ以上に自分が大事にしているものがそこで表現されているかが大切です。ここでもまた、棚卸しが必要となります。自分の好きなもの、曲げられないもの、それらをかき集めてきて、いくつも組み合わせ、その中からじっくりくるものを選ぶのです。そして最後には、人に聞きましょう。「私といえば、どれだと思う？」と聞いてみて、そこからは人によるジャッジです。なぜなら、ロゴを見て判断するのは自分ではなく他人だからです。プロには頼まず自分でやりたいなら、このような手順でされると良いと思います。もしも、その完成したロゴが自分の想いをイメージできていないものなら、そこはやはりプロにお願いすると良いですね。低単価で作ってくれる人もいますが、「この屋号でお金を稼げる自分になりたい」と思うのであれば、先行投資としてしっかりお金を払って、プロに棚卸しをしてもらいましょう。自分はどうしていききたいのか。人に何かを言われて、揺れてしまううちはダメです。信念を持って、時代に流されないものを生み出してください。

Y 時代に流されないものですか。協会のJGAのマークは勢いで作ったものですが、ずっと使われ続けています。「これじゃないとダメ」というくらい愛着がありますが、橘高さんが話されていたような、理念や信念といったものは大して入っていないように感じます。

K 当時は勢いで作ったものとしても、それが

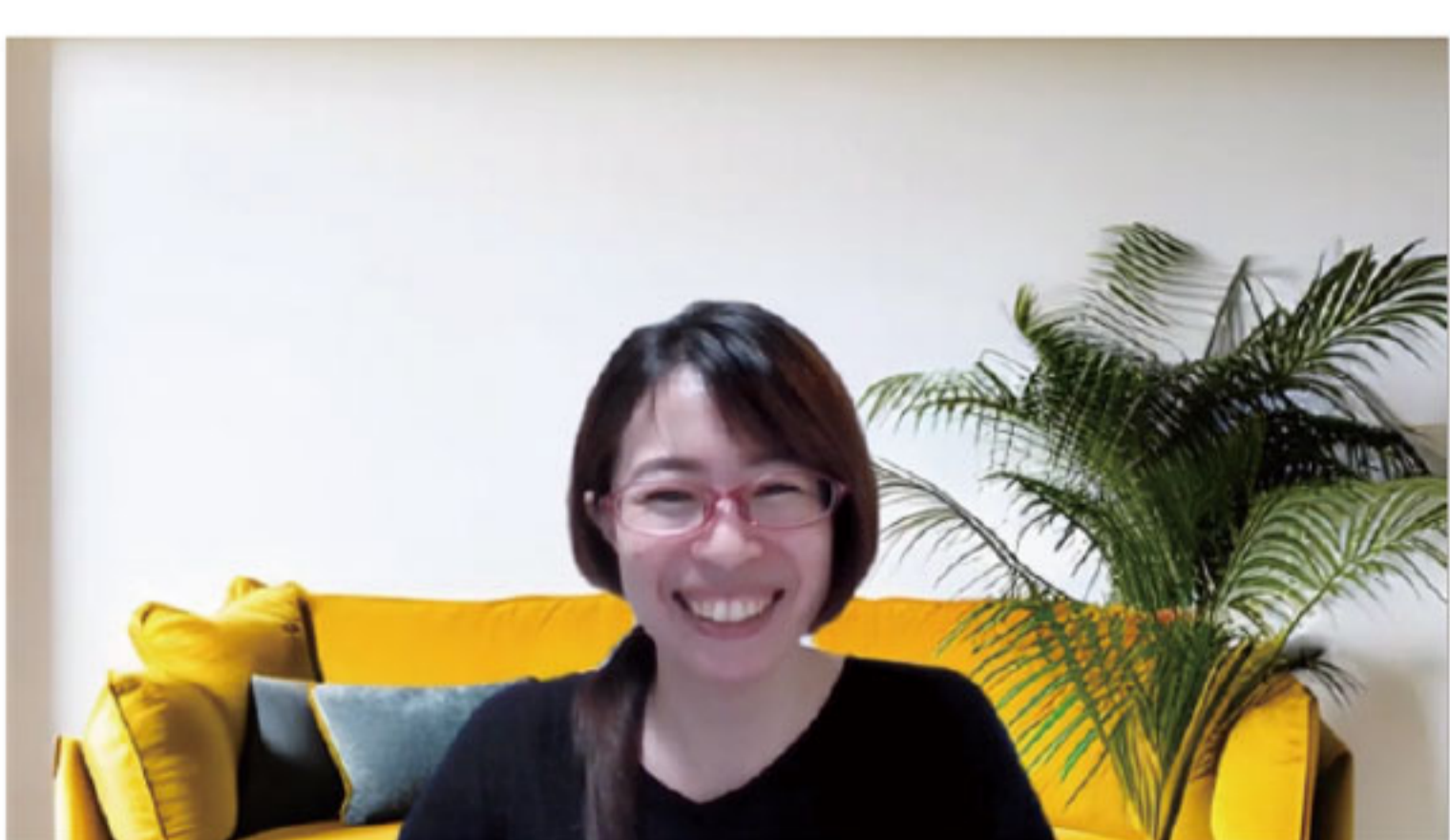
こうして続いているということは、愛着という思い入れが入り、後からしつかり芯が入ったものになっているということですね。そうでなければ、3年ほどで消えていると思います。こうして今に至っているということは、スタートがどうであれ、しつかり魂が入り続けてきたのだと思います。

Y なるほど。私のように、最初は何も考えずに勢いで作られる人もいると思いますが、長く続き愛着があるのであれば、それがあなたの屋号になっていくということですね。

K その通りです。あとは、自分の好きな色は使うといいですね。自然に使ってしまうような色。自分を愛せるための色とモノを、必ずロゴに入れてください。

Y 勢いで作ったロゴですが、好きな色と好きなモノは入っていますね。これからも、このロゴでやっていきます！今日は、良いお話が伺えて本当に良かったです。グルーデコ講師のみなさんのお悩みも解決できたのではないかと思います。本当ありがとうございます。

K こちらこそ、ありがとうございました。



Modern KINTSUGI

グルー継ぎ



wGlue®のみで修復するのがモダン金継ぎ【グルー継ぎ】
24時間後に硬化したのち、研磨してさらに磨きをかけ、艶出しもできます。

wGlue®は食品接触可能な安心な主成分。

重金属や問題視されている環境ホルモンも未検出の優秀なパテ。^{※1}
初めての人も簡単に食器を美しく修復する事ができます。

もちろん食器として使用できます。つけ置きもでき、食洗機も使用できます。^{※2}

【ハンドメイドでSDGs】の活動の一つとして生まれたハンドメイド【グルー継ぎ】
サステイナブルなハンドメイドとして日本全国の講師と共にその考え方を広げて
いきます

※1 検査機関SGSジャパン株式会社(英文名SGS Japan Inc.)

一般財団法人化学研究評価機構 高分子試験・評価センター
※2 食器自体が可能なものに限ります

私の思い

山岡まさえ

Masae Yamaoka

一般社団法人 日本グルーデコ協会代表理事

日本の伝統とSDGs

一般社団法人日本グルーデコ協会(JGA)は2022年より「ハンドメイドでSDGs」活動を始めています。

ハンドメイドの力で、持続可能な社会を実現するために、JGAの講師がそれぞれ出来るところからスタートいたしました。

例えば、レッスン中や制作中に出るごみを減らす努力や、ペーパーレス、梱包資材の簡素化、また、廃棄される予定の資材を使ったアクセサリー作りなど、様々な形でサステイナブルなハンドメイドを目指して努力を続けています。

そのような講師の方々の姿を拝見して、みんなで同じハンドメイドを使って取り組むことができる「サステイナブルプロダクト」があれば、もっとこの活動を加速化でき、多くの方にも知ってもらえるのではないかと考え、現代の素材(WGlu®)を活かしたモダン金継ぎとして、「グルー継ぎ」という新しいハンドメイドの形を作りました。



つくる責任、 つかう責任

このハンドメイドを通して、SDGsの12番目である目標「つくる責任、つかう責任」の達成を目指していきたいと思っております。

これは、私たちが暮らす地球の未来のために、今私たちができることを実践することであり、私たちの子どもたちや孫たちが健やかな環境で暮らせる未来を目指すことです。私たちは、このハンドメイドを広め、多くの人々に共感してもらおうことを目指し、今後もSDGsに取り組み、持続可能な社会を実現していきたいと考えています。



Modern KINTSUGI

モダン金継ぎ 「グルー継ぎ」とは…

「モダン金継ぎ」「グルー継ぎ」は、日本古来の食器修復方法である金継ぎを、現代の技術、材料と組み合わせて再構築した革新的な手法です。

この手法の最大の特徴は、他の金継ぎの方法が複数の材料を必要とするのに対し、wGlue®（ダブルグルー）という接着剤一つだけで修復が完了することです。

従来の金継ぎでは、漆や他の接着剤、さらには補強材や着色料など、複数の素材や工程が必要でした。wGlue®を使用することで、作業が単純化され、一つの接着剤だけで修復が完了するのです。wGlue®は自然鉱物を主成分とし、直接食品と接触しても安全な接着剤です。

この革新的な手法によって生み出される作品は、食器だけでなく、様々なアート作品としても注目を集めています。ハンドメイドの世界で初めて、wGlue®を使ったグルー継ぎが可能になり、修復作業が簡略化されることで、より多くの人々がグルー継ぎの美しさと魅力に触れることができます。

グルー継ぎの修理では、食器のあらゆる破損状況に対応できます。

ひび

食器に亀裂が入っているもの



ほつれ

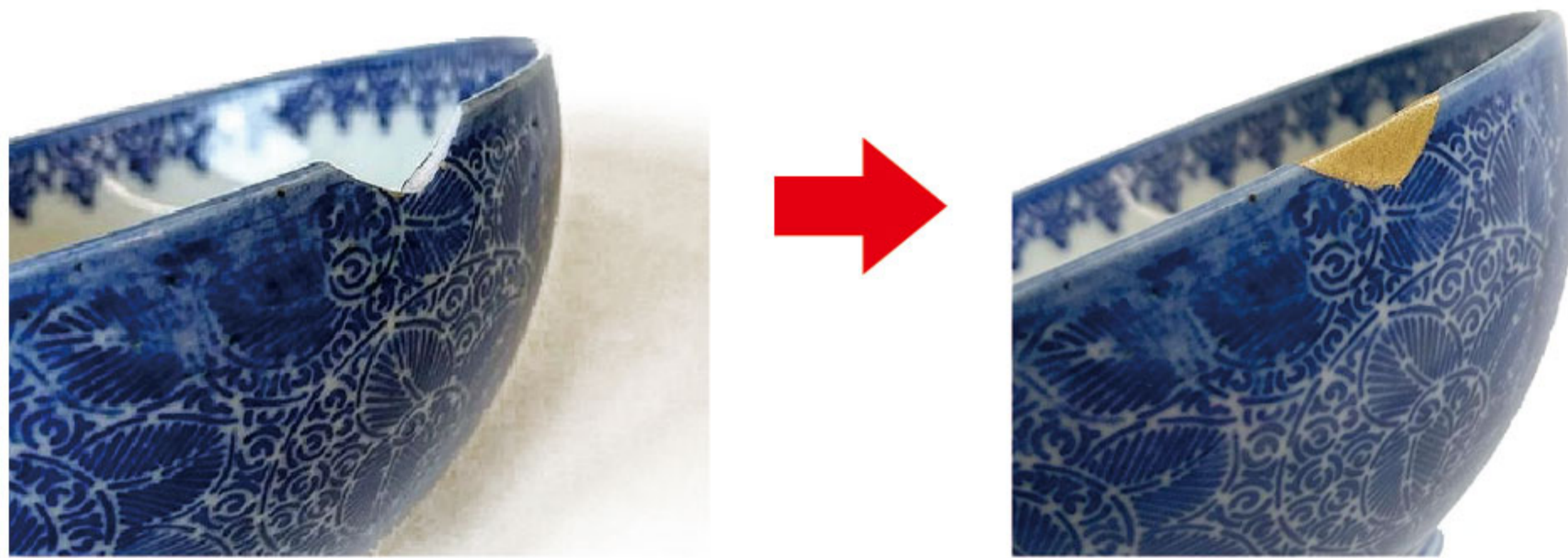
食器の表面がはがれるように欠けているもの



欠け

食器の一部が割れてその部分が無くなっているもの

パーツを先に作成してからそれを芯として修復したり、他の食器のパーツを使って修復することもできます。
(よび継ぎといいます)



割れ

複数の破片にバラバラになったもの



Recipe

ネオン(蛍光)カラーで作る色相環レシピ公開!!

このプレートと各トーンの詳細な配合が
ついているレシピ付きのレッスンを本部で
開催予定です!



※写真のカラーは目安にのみお使いください。

メインカラー

単位(g)

	ネオンイエロー	ネオンシアン	ネオンマゼンタ	ネオンレッド	合計
V1		0.05		4.95	5
V2				5.00	5
V3	2.00			3.00	5
V4	4.13			0.87	5
V5	4.76			0.24	5
V6	4.81			0.19	5
V7	4.85			0.15	5
V8	4.95			0.05	5
V9	5.00				5
V10	4.95	0.05			5
V11	4.55	0.45			5
V12	3.85	1.15			5
V13	2.50	2.50			5
V14	1.67	3.33			5
V15	0.45	4.55			5
V16	0.24	4.76			5
V17		5.00			5
V18		4.90	0.10		5
V19		3.57	1.43		5
V20		2.50	2.50		5
V21		1.43	3.57		5
V22		0.83	4.17		5
V23		0.56		4.44	5
V24		0.25		4.75	5
合計	48.71	35.88	11.77	23.64	
使用グルー 個数	5	4	2	3	

wGlue®のB剤は共通していることから、A剤のみを混ぜ合わせて新たなカラーを作り出すことが可能です。

A剤を混ぜて混色した状態で保存しておくことが可能です。

認定講師向けに販売されている『wGlue® Color Booklet』ではノーマルカラーの7色(フューシャ・シトリン・インディコライト・サン・ペリドット+クリスタル・ジェット)で様々なグルーカラーの作り方を掲載しておりますが、蛍光グルーで混色する場合は、ネオンイエロー、ネオンマゼンタ、ネオンシアンに加え、ネオンレッドも加えるのが、メーカーのおすすめです。

このネオン(蛍光)カラーで作るメインになる色相環のレシピを公開します!!

この24色をネオンイエロー・ネオンブルー・ネオンマゼンタ・ネオンレッドの4色から作れます。

またこのメインカラー5gに

白(クリスタル)	0.25g、1.5g、10g
薄いグレー(ジェット2:クリスタル8の割合)	1.5g、7.5g
濃いグレー(ジェット4.5:クリスタル5.5の割合)	1.5g、3.75g
黒(ジェット)	0.1g、0.5g、1.5g

を加えることによって各トーンのカラーが作れます。

ぜひ実際に混色してみてご自身の色をつくる際の色の目安にしてくださいね。

wGlue®ご使用上の注意

- ・お子様が誤飲されないよう手の届かないところで作業・保管してください。
- ・グルーを使用する際はゴム手袋を着用してください。体質によってはかぶれる場合があります。万一異常がありましたら医師にご相談ください。
- ・直射日光を避け、涼しい場所に保管してください。

Column

『宇宙の転換期は、私たち個人の転換期 自己成長から最高の作品作りへ』

2023年は、宇宙模様としては転換期でした。地球全体が大きな影響を受けている、遠い場所にある天体が大移動をしたからです。世界では戦争が続き、物資、ガソリンをはじめ、あらゆるものの値段が高騰。「私たちには関係ない」などとは全く言えない様相が続いています。この流れは、来年の1月末まで続きます。世の中の流れで、予想外のことが起こる時期でもあるので、驚くかもしれないですが自身のことをしていきましょう。

2023年も、あと2ヶ月。宇宙は私たち一人ひとりに変化を求めてきます。冥王星のキーワードである「破壊と再生」、土星のキーワードである「新しい舞台」。変化がないわけじゃないですよ。このことを踏まえて、私たちは何をすればいいのか、その辺りをお伝えします。

モヤモヤは、次第にクリアに

毎年、夏はたくさん惑星が逆行し、宇宙はとても忙しいです。ですが10月末以降になると、逆行していた冥王星、土星などが順番に順行になるので、何かしらモヤモヤしていた人も、少しずつ心身ともにクリアになってくるはずですよ。年末あたりには、「自分がこれから何をすればいいのか？」がハッキリわかる人も。自分を取り囲む物事も、スムーズに流れていくようになるでしょう。

ですが、1点だけ注意することが、クリエイターであるみなさまに大いに関係あるのが海王星。海王星はアイデア、イメージーションを司る惑星ですが、こちらは12月6日まで逆行しています。それまでは、良いアイデアが浮かばないことも。クリエイティブなこと以外はインプットを活かせると思うので、作品作りに必要な資料集め、SNSの発信などに力を入れておきましょう。

また、大晦日まで木星も逆行しています。せっかくなので、今年の年頭に掲げた目標や夢など、自分で決めたことが出来ているか？しっかりと確認してください。年末までに動けば、土星が応援してくれます。

2023年中に結果を出したいことは、 12月20日までに

逆行している惑星、背中を押してくれる惑星、宇宙模様はさまざまですが、せっかくなので11月と12月の暦上で良い日をお伝えしておきます。下記に挙げた日は、ラッキーデーだと考えてください。

（11月）
11月4日（土） 大安+寅の日
11月11日（土） 一粒万倍日
11月12日（日） 一粒万倍日
11月13日（月） 蠍座新月
11月23日（木） 一粒万倍日
11月27日（月） 双子座満月

（12月）
12月5日（火） 一粒万倍日
12月6日（水） 一粒万倍日
12月7日（木） 一粒万倍日
12月8日（金） 一粒万倍日+大安
12月13日（水） 射手座新月
12月19日（火） 一粒万倍日+大安
12月20日（水） 一粒万倍日
12月22日（金） 寅の日+冬至
12月27日（水） 蟹座満月
12月31日（日） 一粒万倍日+大安

見るとわかると思いますが、11月よりも12月のほうが暦の上で良い日が多いですね。前半の5日〜8日、後半の19日〜22日。

2023年にやるべきことは、22日までに終わらせてしまいたい。とくに、22日は冬至。2024年にやりたいことがある人は、この日までに考えておくといいですよ。そして、1月1日に書き出しましょう。

なんと、2024年1月1日は、2024年の中での一番の最強開運日です。水星逆行中でもあるんですが、2024年が良い年にするために、しっかりと書き出して頭の中に入れておくといいですね。

2024年は、今まで以上に 自身を成長させる1年に

さらに、2024年は本格的に「風の時代」に移る年。まだ少し残っている「土の時代」の常識、「安定」や「物質」「年功序列」などがどんどん無くなっていく。2024年は水瓶座のキーワードが色濃くなります。ブレない自分自身に成長すること。モラルを大切にすること。愛情を感じることに時間を費やすこと。個性を磨くこと。我慢をやること。ネットリテラシーを守ること。これらのことを

自分に取り込むことで、風の時代を軽やかに生きられるようになります。
また、2024年はスピリチュアルな要素に目を向けると運気が上がります。心の成長、内面の成長を意識することで、作品作りにも活きてきます。
その辺りの詳しいことは、年明けのコラムで詳しくお伝えします。素晴らしい2024年を迎えるために、宇宙を味方につけながら、年内にやるべきことをやってみましょう！



戸田美紀
Miki Toda



ブログ『出版メディア相談室～WEB文章からSNS構築、出版まで～』
<https://ameblo.jp/miki-coco/>



Facebook
<https://www.facebook.com/miki.toda>



instagram
https://www.instagram.com/toda_miki/

文章勉強歴、宇宙勉強歴40年。著者は4冊。
ブックライター、ビジネス融合コンサルタントとして
活動しながら、主にブログで発信中。

Schedule 2023-24

2023年11月 9日(木) 10時30分～13時30分
2023年11月13日(月) 10時30分～13時30分
2023年11月17日(金) 10時30分～13時30分

モダン金継ぎ～グルー継ぎ～認定講師講座 全3日受講 ※締切済み

毎月第3水曜日14時～15時30分 開催予定
2023年11月15日(水)
2023年12月20日(水)
2024年 1月17日(水)

10周年記念お誕生日会という名の作戦会議

※予定・変更になる場合があります
※お誕生月の方には、その前月の終わりに
メールマガジンでお知らせいたします。
届いてない場合は本部にお問合せください。

Sae's

天声人語

「デジタル」の時代に

求められる「アナログ」。

逆の新鮮さが若者を虜にしている。

いわゆるZ世代が火付け役で、昭和レトロブームが2000年代初めから徐々に始まり、今なおそのブームは続いています。

いわゆる昭和生まれが多い私たちにとって、「どうして?」と疑問に思うことも多いかもしれませんが、私たちの生きてきた時代を今の若者が求めているようです。

Z世代が「デジタル」であるのなら、昭和世代は「アナログ」。アナログってなに?昭和ってどんな時代だったの?そういったZ世代の探求心からはじまり、Z世代特有の情報能力、そうです、インターネットやSNSを活用し、昭和について多く検索され、それが昭和レトロブームへと発展したのです。ただ、日本人の約7割が昭和生まれ、その中でも、77歳から34歳が殆どということも。マーケットとして昭和を懐かしむ世代が多いのも事実ではあります。さて、そんな昭和レトロブーム、あなたならどう活用しますか?



編集後記

◆「こんにちは認定講師です」は、奈良生駒で活躍されている伊藤先生。奈良の自治体からの支援のことや竹を土台にして作るバンブーデコのこと、そしてジャパンエキスポパリへの出展など、これからの活動の参考になること必須です!

◆プレオサの2024AW新作。なかなかチャトンの新色は発売されませんが、新しいカラーには心躍りますね!

◆理事のインタビューコーナー
今回のインタビューは、グルーデコカンファレンスでもお世話になった橘高さん。手作り作家さんのプロデューサーとしてのお話を伺いました。

◆2023年いよいよモダン金継ぎ×グルー継ぎ認定講師講座がはじまります。グルーデコと併せて、JGAの二大柱となるはず。これからはグルー継ぎを習いたいとおっしゃってくださる生徒様も多くなるかと思えます。ぜひチャレンジしてみてくださいね。

◆レシピは、蛍光グルーで作る色相環!!
ノーマルカラーにも蛍光カラーが入っているので鮮やかなwGlue®ですが、新発売のネオンカラーのグルーで混色することでより鮮やかな混色ができます。色相環のレシピ太っ腹大公開です!
ぜひお気に入りの色を作ってみてください。

◆戸田美紀先生のコラム。毎回わかりやすいアドバイスが大人気。これにあわせて製作してみよう!という気持ちがかむくむ!!

JGA Paper

2023年秋冬 Vol.21

発行：一般社団法人日本グルーデコ協会

発行者：山岡まさえ

住所：〒541-0042

大阪府大阪市中央区今橋1-7-19 北浜ビルディング3階

TEL：06-4707-0888

E-mail：jga@wglue.co.jp

URL：https://www.wglue.co.jp/